

平成29年度 九州大学2次試験前期日程(数学問題)150分  
理系(経済(経工), 理, 医, 歯, 薬, 工, 芸工, 農学部)

1 定数  $a > 0$  に対し, 曲線  $y = a \tan x$  の  $0 \leq x < \frac{\pi}{2}$  の部分を  $C_1$ , 曲線  $y = \sin 2x$  の  $0 \leq x < \frac{\pi}{2}$  の部分を  $C_2$  とする。以下の問いに答えよ。

- (1)  $C_1$  と  $C_2$  が原点以外に交点をもつための  $a$  の条件を求めよ。
- (2)  $a$  が (1) の条件を満たすとき, 原点以外の  $C_1$  と  $C_2$  の交点を  $P$  とし,  $P$  の  $x$  座標を  $p$  とする。  $P$  における  $C_1$  と  $C_2$  のそれぞれの接線が直交するとき,  $a$  および  $\cos 2p$  の値を求めよ。
- (3)  $a$  が (2) で求めた値のとき,  $C_1$  と  $C_2$  で囲まれた図形の面積を求めよ。

2 2つの定数  $a > 0$  および  $b > 0$  に対し, 座標空間内の4点を

$$A(a, 0, 0), B(0, b, 0), C(0, 0, 1), D(a, b, 1)$$

と定める。以下の問いに答えよ。

- (1) 点  $A$  から線分  $CD$  におろした垂線と  $CD$  の交点を  $G$  とする。  $G$  の座標を  $a, b$  を用いて表せ。
- (2) さらに, 点  $B$  から線分  $CD$  におろした垂線と  $CD$  の交点を  $H$  とする。  $\overrightarrow{AG}$  と  $\overrightarrow{BH}$  がなす角を  $\theta$  とするとき,  $\cos \theta$  を  $a, b$  を用いて表せ。

3 初項  $a_1 = 1$ , 公差4の等差数列  $\{a_n\}$  を考える。以下の問いに答えよ。

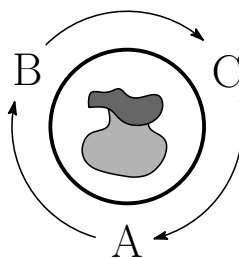
- (1)  $\{a_n\}$  の初項から第600項のうち, 7の倍数である項の個数を求めよ。
- (2)  $\{a_n\}$  の初項から第600項のうち,  $7^2$  の倍数である項の個数を求めよ。
- (3) 初項から第  $n$  項までの積  $a_1 a_2 \cdots a_n$  が  $7^{45}$  の倍数となる最小の自然数  $n$  を求めよ。

4 赤玉 2 個，青玉 1 個，白玉 1 個が入った袋が置かれた円形のテーブルの周りに A, B, C の 3 人がこの順番で時計回りに着席している。3 人のうち，ひとりが袋から玉を 1 個取り出し，色を確認したら袋にもどす操作を考える。1 回目は A が玉を取り出し，次のルール (a), (b), (c) に従って勝者が決まるまで操作を繰り返す。

- (a) 赤玉を取り出したら，取り出した人を勝者とする。
- (b) 青玉を取り出したら，次の回も同じ人が玉を取り出す。
- (c) 白玉を取り出したら，取り出した人の左隣りの人が次の回に玉を取り出す。

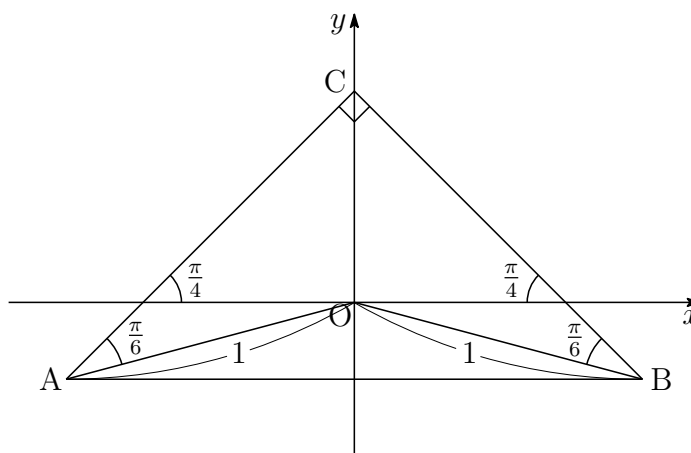
A, B, C の 3 人が  $n$  回目に玉を取り出す確率をそれぞれ  $a_n, b_n, c_n$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) とする。ただし， $a_1 = 1, b_1 = c_1 = 0$  である。以下の問いに答えよ。

- (1) A が 4 回目に勝つ確率と 7 回目に勝つ確率をそれぞれ求めよ。
- (2)  $d_n = a_n + b_n + c_n$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) とおくとき， $d_n$  を求めよ。
- (3) 自然数  $n \geq 3$  に対し， $a_{n+1}$  を  $a_{n-2}$  と  $n$  を用いて表せ。



5 2つの複素数  $\alpha = 10000 + 10000i$  と  $w = \frac{\sqrt{3}}{4} + \frac{1}{4}i$  を用いて、複素数平面上の点  $P_n(z_n)$  を  $z_n = \alpha w^n$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) により定める。ただし、 $i$  は虚数単位を表す。2と3の常用対数を  $\log_{10} 2 = 0.301$ ,  $\log_{10} 3 = 0.477$  として、以下の問いに答えよ。

- (1)  $z_n$  の絶対値  $|z_n|$  と偏角  $\arg z_n$  を求めよ。
- (2)  $|z_n| \leq 1$  が成り立つ最小の自然数  $n$  を求めよ。
- (3) 下図のように、複素数平面上の  $\triangle ABC$  は線分  $AB$  を斜辺とし、点  $C\left(\frac{i}{\sqrt{2}}\right)$  を一つの頂点とする直角二等辺三角形である。なお  $A, B$  を表す複素数の虚部は負であり、原点  $O$  と2点  $A, B$  の距離はともに1である。点  $P_n$  が  $\triangle ABC$  の内部に含まれる最小の自然数  $n$  を求めよ。



## 解答例

- 1 (1)  $0 < x < \frac{\pi}{2}$  のとき,  $y = a \tan x$  と  $y = \sin 2x$  から  $y$  を消去すると

$$a \tan x = \sin 2x \quad \text{ゆえに} \quad a = \frac{\sin 2x}{\tan x} = 2 \cos^2 x \quad \cdots \textcircled{1}$$

このとき,  $0 < 2 \cos^2 x < 2$  より  $0 < a < 2$

- (2)  $f(x) = a \tan x$ ,  $g(x) = \sin 2x$  とおいて, これらを微分すると

$$f'(x) = \frac{a}{\cos^2 x}, \quad g'(x) = 2 \cos 2x$$

交点 P の  $x$  座標が  $p$  であるから, ① より  $a = 2 \cos^2 p \quad \cdots \textcircled{2}$

$$f'(p)g'(p) = -1 \text{ であるから} \quad \frac{a}{\cos^2 p} \times 2 \cos 2p = -1$$

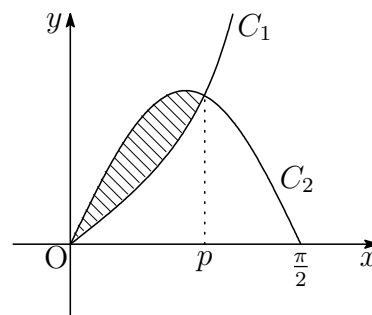
② を上式に代入すると

$$\frac{2 \cos^2 p}{\cos^2 p} \times 2 \cos 2p = -1 \quad \text{ゆえに} \quad \cos 2p = -\frac{1}{4}$$

$$\text{したがって} \quad a = 2 \cos^2 p = \cos 2p + 1 = -\frac{1}{4} + 1 = \frac{3}{4}$$

- (3) 求める面積は右の図の斜線部分であるから, その面積を  $S$  とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_0^p \left( \sin 2x - \frac{3}{4} \tan x \right) dx \\ &= \left[ -\frac{1}{2} \cos 2x + \frac{3}{4} \log |\cos x| \right]_0^p \\ &= -\frac{1}{2} \cos 2p + \frac{1}{2} + \frac{3}{4} \log |\cos p| \end{aligned}$$



$$\text{ここで, (2) の結果から} \quad \log |\cos p| = \frac{1}{2} \log \cos^2 p = \frac{1}{2} \log \frac{3}{8}$$

$$\text{よって} \quad S = -\frac{1}{2} \times \left( -\frac{1}{4} \right) + \frac{1}{2} + \frac{3}{4} \times \frac{1}{2} \log \frac{3}{8} = \frac{5}{8} + \frac{3}{8} \log \frac{3}{8}$$

2 (1)  $A(a, 0, 0)$ ,  $C(0, 0, 1)$ ,  $D(a, b, 1)$  より

$$\overrightarrow{CA} = (a, 0, -1), \quad \overrightarrow{CD} = (a, b, 0)$$

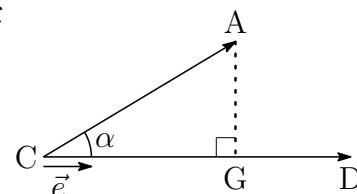
$$\text{したがって} \quad \overrightarrow{CG} = \frac{\overrightarrow{CA} \cdot \overrightarrow{CD}}{|\overrightarrow{CD}|^2} \overrightarrow{CD} = \frac{a^2}{a^2 + b^2} (a, b, 0)$$

$$\begin{aligned} \text{ゆえに} \quad \overrightarrow{OG} &= \overrightarrow{OC} + \overrightarrow{CG} = (0, 0, 1) + \frac{a^2}{a^2 + b^2} (a, b, 0) \\ &= \left( \frac{a^3}{a^2 + b^2}, \frac{a^2 b}{a^2 + b^2}, 1 \right) \end{aligned}$$

$$\text{よって} \quad G \left( \frac{a^3}{a^2 + b^2}, \frac{a^2 b}{a^2 + b^2}, 1 \right)$$

補足  $\overrightarrow{CA}$  と  $\overrightarrow{CD}$  のなす角を  $\alpha$  とし, 単位ベクトル  $\vec{e}$  を

$$\vec{e} = \frac{\overrightarrow{CD}}{|\overrightarrow{CD}|} \quad \dots \textcircled{1}$$



とすると, A から CD に下ろした垂線と CD の交点 G について

$$\overrightarrow{CG} = (|\overrightarrow{CA}| \cos \alpha) \vec{e} \quad \dots \textcircled{2}$$

$$\text{また, } \cos \alpha = \frac{\overrightarrow{CA} \cdot \overrightarrow{CD}}{|\overrightarrow{CA}| |\overrightarrow{CD}|} \text{ であるから } |\overrightarrow{CA}| \cos \alpha = \frac{\overrightarrow{CA} \cdot \overrightarrow{CD}}{|\overrightarrow{CD}|}$$

$$\text{これと } \textcircled{1} \text{ を } \textcircled{2} \text{ に代入すると } \quad \overrightarrow{CG} = \frac{\overrightarrow{CA} \cdot \overrightarrow{CD}}{|\overrightarrow{CD}|^2} \overrightarrow{CD}$$

(2)  $B(0, b, 0)$  から,  $\overrightarrow{CB} = (0, b, -1)$  であるから, (1) と同様にして

$$\begin{aligned}\overrightarrow{OH} &= \overrightarrow{OC} + \overrightarrow{CH} = \overrightarrow{OC} + \frac{\overrightarrow{CB} \cdot \overrightarrow{CD}}{|\overrightarrow{CD}|^2} \overrightarrow{CD} \\ &= (0, 0, 1) + \frac{b^2}{a^2 + b^2} (a, b, 0) = \left( \frac{ab^2}{a^2 + b^2}, \frac{b^3}{a^2 + b^2}, 1 \right)\end{aligned}$$

上式および (1) の結果から

$$\begin{aligned}\overrightarrow{AG} &= \overrightarrow{OG} - \overrightarrow{OA} = \left( \frac{a^3}{a^2 + b^2}, \frac{a^2b}{a^2 + b^2}, 1 \right) - (a, 0, 0) \\ &= \left( -\frac{ab^2}{a^2 + b^2}, \frac{a^2b}{a^2 + b^2}, 1 \right), \\ \overrightarrow{BH} &= \overrightarrow{OH} - \overrightarrow{OB} = \left( \frac{ab^2}{a^2 + b^2}, \frac{b^3}{a^2 + b^2}, 1 \right) - (0, b, 0) \\ &= \left( \frac{ab^2}{a^2 + b^2}, -\frac{a^2b}{a^2 + b^2}, 1 \right)\end{aligned}$$

$\vec{u} = (a^2 + b^2)\overrightarrow{AG}$ ,  $\vec{v} = (a^2 + b^2)\overrightarrow{BH}$  とおくと

$$\vec{u} = (-ab^2, a^2b, a^2 + b^2), \quad \vec{v} = (ab^2, -a^2b, a^2 + b^2)$$

したがって

$$\begin{aligned}\vec{u} \cdot \vec{v} &= -a^2b^4 - a^4b^2 + (a^2 + b^2)^2 \\ &= (a^2 + b^2)(a^2 + b^2 - a^2b^2), \\ |\vec{u}|^2 = |\vec{v}|^2 &= a^2b^4 + a^4b^2 + (a^2 + b^2)^2 \\ &= (a^2 + b^2)(a^2 + b^2 + a^2b^2)\end{aligned}$$

$\vec{u}$  と  $\vec{v}$  のなす角は  $\theta$  であるから

$$\cos \theta = \frac{\vec{u} \cdot \vec{v}}{|\vec{u}| |\vec{v}|} = \frac{(a^2 + b^2)(a^2 + b^2 - a^2b^2)}{(a^2 + b^2)(a^2 + b^2 + a^2b^2)} = \frac{a^2 + b^2 - a^2b^2}{a^2 + b^2 + a^2b^2}$$

- 3** (1) 初項  $a_1 = 1$ , 公差 4 の等差数列  $\{a_n\}$  の一般項は

$$a_n = 1 + 4(n - 1) = 4n - 3 \cdots \textcircled{1}$$

$a_n$  が 7 の倍数であるとき,  $4n - 3 \equiv 0 \pmod{7}$  であるから

$$8n \equiv 6 \quad \text{ゆえに} \quad n \equiv -1 \pmod{7}$$

このとき,  $n$  は整数  $m$  を用いて

$$n = 7m - 1 \quad \cdots \textcircled{2}$$

したがって,  $1 \leq 7m - 1 \leq 600$  を満たす整数  $m$  の個数は

$$\frac{2}{7} \leq m \leq \frac{601}{7} \quad \text{すなわち} \quad 1 \leq m \leq 85$$

よって, 求める個数は **85** (個)

- (2) ② を ① に代入すると

$$a_n = 4(7m - 1) - 3 = 7(4m - 1)$$

$a_n$  が  $7^2$  の倍数であるとき,  $4m - 1 \equiv 0 \pmod{7}$  であるから

$$8m \equiv 2 \quad \text{ゆえに} \quad m \equiv 2 \pmod{7}$$

このとき,  $m$  は整数  $l$  を用いて

$$m = 7l + 2$$

これを ② に代入すると

$$n = 7(7l + 2) - 1 = 49l + 13 \quad \cdots \textcircled{3}$$

したがって,  $1 \leq 49l + 13 \leq 600$  を満たす整数  $l$  の個数は

$$-\frac{12}{49} \leq l \leq \frac{587}{49} \quad \text{すなわち} \quad 0 \leq l \leq 11$$

よって, 求める個数は **12** (個)

(3) ③を①に代入すると

$$a_n = 4(49l + 13) - 3 = 7^2(4l + 1)$$

$a_n$ が $7^3$ の倍数であるとき、 $4l + 1 \equiv 0 \pmod{7}$ であるから

$$8l \equiv -2 \quad \text{ゆえに} \quad l \equiv -2 \pmod{7}$$

このとき、 $l$ は整数 $k$ を用いて

$$l = 7k - 2$$

これを③に代入すると

$$n = 49(7k - 2) + 13 = 343k - 85 \quad \dots \textcircled{4}$$

$1 \leq 343k - 85 \leq 600$ を満たす整数 $k$ は1で、このとき  $n = 258$

④を①に代入すると

$$a_n = 4(343k - 85) - 3 = 7^3(4k - 1)$$

これから、 $a_n$ が $7^4$ の倍数となることはない。

以上の結果および②、③より、 $1 \leq n \leq 600$ に対して

$$a_n \text{が} 7 \text{の倍数であるとき} \quad n \equiv -1 \pmod{7}$$

$$a_n \text{が} 7^2 \text{の倍数であるとき} \quad n \equiv 13 \pmod{49}$$

$$a_n \text{が} 7^3 \text{の倍数であるとき} \quad n = 258$$

数列 $\{a_n\}$ のうち、7の倍数の項を次のように並べると

$a_6$	$a_{13}$	$a_{20}$	$a_{27}$	$a_{34}$	$a_{41}$	$a_{48}$
$a_{55}$	$a_{62}$	$a_{69}$	$a_{76}$	$a_{83}$	$a_{90}$	$a_{97}$
$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$
$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$
$a_{202}$	$a_{209}$	$a_{216}$	$a_{223}$	$a_{230}$	$a_{237}$	$a_{244}$
$a_{251}$	$a_{258}$	$a_{265}$				

上の表で2列目のみ $7^2$ を因数にもち、それ以外の列は7を因数にもつ。

ただし、第6行目第2列の $a_{258}$ のみ $7^3$ を因数にもつ。

したがって、2列目以外の32項(7を因数にもつ)、2列目の第1行から第5行目までの5項( $7^2$ を因数にもつ)および第6行目第2列の $a_{258}$ より

$$32 \times 1 + 2 \times 5 + 3 = 45$$

よって、求める $n$ の最小値は  $n = 265$



別解 (2)  $a_n = 4n - 3$  より,  $a_n$  が  $7^2$  の倍数であるとき

$$4n - 3 \equiv 0 \pmod{49} \quad \text{ゆえに} \quad 12(4n - 3) \equiv 0 \pmod{49} \quad \text{すなわち} \quad n \equiv 13 \pmod{7^2}$$

$$n \text{ は整数 } l \text{ を用いて} \quad n = 49l + 13$$

したがって,  $1 \leq 49l + 13 \leq 600$  を満たす整数  $l$  の個数は

$$-\frac{12}{49} \leq l \leq \frac{587}{49} \quad \text{すなわち} \quad 0 \leq l \leq 11$$

よって, 求める個数は **12 (個)**

(3)  $a_n = 4n - 3$  より,  $a_n$  が  $7^3$  の倍数であるとき

$$4n - 3 \equiv 0 \pmod{343} \quad \text{ゆえに} \quad 86(4n - 3) \equiv 0 \pmod{343} \quad \text{すなわち} \quad n \equiv 258 \pmod{7^3}$$

$$n \text{ は整数 } m \text{ を用いて} \quad n = 343m + 258$$

したがって,  $1 \leq 343m + 258 \leq 600$  を満たす整数  $m$  は  $m = 0$  の 1 個で

$$a_{258} = 4 \cdot 258 - 3 = 1029 = 3 \cdot 7^3$$

また,  $\{a_n\}$  の初項から第 600 項のうち,  $7^4$  で割り切れる項はない.

(1),(2) の結果から, 数列  $\{a_n\}$  のうち, 7 の倍数の項を次のように並べると

$a_6$	$a_{13}$	$a_{20}$	$a_{27}$	$a_{34}$	$a_{41}$	$a_{48}$
$a_{55}$	$a_{62}$	$a_{69}$	$a_{76}$	$a_{83}$	$a_{90}$	$a_{97}$
$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$
$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$
$a_{202}$	$a_{209}$	$a_{216}$	$a_{223}$	$a_{230}$	$a_{237}$	$a_{244}$
$a_{251}$	$a_{258}$	$a_{265}$				

これら 38 個の項をそれぞれ 7 で割ると, さらに 7 で割り切れる項が第 2 列に 6 個あり, これらをまた 7 で割ると, 最後に残った  $a_{258}$  だけが 7 で 1 回割れる.

したがって, これら 38 個の積は 7 で  $38 + 6 + 1$ , すなわち, 45 回割り切れる.

よって, 求める  $n$  の最小値は  **$n = 265$**

4 (1) 定められたルールにより、次の確率漸化式が得られる。

$$(*) \quad a_{n+1} = \frac{1}{4}(a_n + c_n), \quad b_{n+1} = \frac{1}{4}(a_n + b_n), \quad c_{n+1} = \frac{1}{4}(b_n + c_n)$$

$d_n = a_n + b_n + c_n$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) とすると

$$d_1 = a_1 + b_1 + c_1 = 1 + 0 + 0 = 1$$

(\*) の辺々を加えることにより

$$d_{n+1} = \frac{1}{2}d_n \quad \text{ゆえに} \quad d_n = \frac{1}{2^{n-1}} \quad \dots \textcircled{1}$$

したがって、(\*) は

$$\begin{aligned} a_{n+1} &= \frac{1}{4} \left( \frac{1}{2^{n-1}} - b_n \right) = \frac{1}{2^{n+1}} - \frac{1}{4}b_n \\ b_{n+1} &= \frac{1}{4} \left( \frac{1}{2^{n-1}} - c_n \right) = \frac{1}{2^{n+1}} - \frac{1}{4}c_n \\ c_{n+1} &= \frac{1}{4} \left( \frac{1}{2^{n-1}} - a_n \right) = \frac{1}{2^{n+1}} - \frac{1}{4}a_n \end{aligned}$$

上の3式から、 $n \geq 3$  のとき

$$\begin{aligned} a_{n+1} &= \frac{1}{2^{n+1}} - \frac{1}{4} \left( \frac{1}{2^n} - \frac{1}{4}c_{n-1} \right) = \frac{1}{2^{n+2}} + \frac{1}{16}c_{n-1} \\ &= \frac{1}{2^{n+2}} + \frac{1}{16} \left( \frac{1}{2^{n-1}} - \frac{1}{4}a_{n-2} \right) = \frac{3}{2^{n+3}} - \frac{1}{64}a_{n-2} \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

② に  $n = 3, 6$  を代入することにより

$$\begin{aligned} a_4 &= \frac{3}{2^6} - \frac{1}{64}a_1 = \frac{3}{64} - \frac{1}{64} \cdot 1 = \frac{1}{32} \\ a_7 &= \frac{3}{2^9} - \frac{1}{64}a_4 = \frac{3}{512} - \frac{1}{64} \cdot \frac{1}{32} = \frac{11}{2048} \end{aligned}$$

よって A が 4 回目に勝つ確率は  $a_4 \times \frac{2}{4} = \frac{1}{32} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{64}$

A が 7 回目に勝つ確率は  $a_7 \times \frac{2}{4} = \frac{11}{2048} \times \frac{1}{2} = \frac{11}{4096}$

(2) ① より  $d_n = \frac{1}{2^{n-1}}$

(3) ② より  $a_{n+1} = \frac{3}{2^{n+3}} - \frac{1}{64}a_{n-2}$

$$\boxed{5} \quad (1) \quad \alpha = 10000 + 10000i = 10000\sqrt{2} \left( \cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4} \right)$$

$$w = \frac{\sqrt{3}}{4} + \frac{1}{4}i = \frac{1}{2} \left( \cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \right)$$

$$\text{ゆえに } z_n = \alpha w^n = \frac{10000\sqrt{2}}{2^n} \left\{ \cos \left( \frac{n}{6} + \frac{1}{4} \right) \pi + i \sin \left( \frac{n}{6} + \frac{1}{4} \right) \pi \right\}$$

$$\text{よって } |z_n| = \frac{10000}{2^{n-\frac{1}{2}}}, \quad \arg z_n = \left( \frac{n}{6} + \frac{1}{4} \right) \pi$$

(2) (1)の結果から,  $|z_n| \leq 1$  のとき

$$\frac{10000}{2^{n-\frac{1}{2}}} \leq 1 \quad \text{ゆえに} \quad 2^{n-\frac{1}{2}} \geq 10^4$$

両辺の常用対数をとると

$$\left( n - \frac{1}{2} \right) \log_{10} 2 \geq 4 \quad \text{ゆえに} \quad n \geq \frac{4}{\log_{10} 2} + \frac{1}{2}$$

$$\text{ここで} \quad \frac{4}{\log_{10} 2} + \frac{1}{2} = \frac{4}{0.301} + 0.5 = 13.7 \dots$$

よって, 求める最小の自然数  $n$  は  $\mathbf{n = 14}$

(3) (1),(2)の結果から

$$\begin{aligned} |z_{14}| &= \frac{10000}{2^{14-\frac{1}{2}}} = \frac{2^4 \cdot 5^4}{2^{13}} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} = \frac{5^4}{2^9} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} = \frac{625}{512} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} > \frac{1}{\sqrt{2}} \\ \arg z_{14} &= \left( \frac{14}{6} + \frac{1}{4} \right) \pi = \frac{7}{12} \pi + 2\pi \\ |z_{15}| &= \frac{10000}{2^{15-\frac{1}{2}}} = \frac{2^4 \cdot 5^4}{2^{14}} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} = \frac{5^4}{2^{10}} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} = \frac{625}{1024} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} \\ &= \frac{1}{2} \cdot \frac{125}{128} \cdot \frac{5}{4\sqrt{2}} = \frac{1}{2} \cdot \frac{125}{128} \sqrt{\frac{25}{32}} < \frac{1}{2} \\ \arg z_{15} &= \left( \frac{15}{6} + \frac{1}{4} \right) \pi = \frac{3}{4} \pi + 2\pi \end{aligned}$$

したがって,  $P_{14}$  は  $\triangle ABC$  の外部にあり,  $P_{15}$  は  $\triangle ABC$  の内部にある.

よって, 求める最小の自然数  $n$  は  $\mathbf{n = 15}$